

きたすま

あなたの信仰があなたを救った (マルコ5・34)

No.216(7月号)

2021年 6月 27日発行
発行 カトリック北須磨教会
〒654-0151

神戸市須磨区北落合2-3-1

発行人 高橋 聡

編集 広報委員会

巻頭言

中川明 神父

播磨地方の石仏を訪ね始め、最近、時々、それをスケッチします。写真を睨みスケッチするのですが、静かな良い時間で、また、妙なことに、自分の拙い絵に心が癒されるのです。それは、水子地藏だからかもしれません。

石仏を訪ねる道すから、水子供養のお地藏さんに出会います。例えば、山間の古い寺の裏山は水子地藏でぎっしりで、たくさんの赤い風車が回り、イヌヤクマのぬいぐるみも横たわっています。そこの地藏の多くは赤い帽子を被り、そのなかで、スケッチのように、目深に被る地藏さんに目が留まりました。母親が目深に被せたのかもしれない、その情景が目に浮かび、私の描く地藏のこの表情を実際に見つめた女性のいることに思い至ります。彼女は、どこか、



まだに、この表情を、心の奥底に秘めているかもしれません。だから、スケッチのこの表情を見つめると、彼女の心の悲しみに触れるようで、この表情を見つめ悲しむ「母」をいとおしむのです。スケッチを見ると、心にそんな揺らぎが生まれ、清閑となります。

私の母は、墓参の際、はず、お地藏さんに水を注ぎ、手を合わせました。最初の子供を流産したからです。



昼間の星 (6)

マリスト修道士会 吉田 治美

懐かしい熊本のマリスト修道院に帰って来た。あれからもう随分長い年月になる。その間の私の家族のことを書いておきたいと思う。

九十一歳の父が倒れたと宮崎から知らせがあった。父はもともと丈夫な人で、寝込んだという話はあまり聞いたことがない。そんな父が倒れたというのは、本当に危ないのに違いないと余計に心配になり、すぐさま姉と一緒に車で熊本を出発した。

父は二十年前、母の死後、しばらく独りで久留米に住んでいた。四人の息子たちは東京、熊本、久留米に分散し、二人の娘は熊本にそれぞれ家庭を持ち、父自身、肉親の母を失っていて、独りで長い間寂しかったに違いない。しばらくして後妻を迎えて、冬の寒い久留米を引き払い、暖かい宮崎に越して来ていた。熊本から宮崎までは車で三時間余り、急流の球磨川沿いに曲がりくねる上り坂の道を延々と、難所の加久藤峠まで上り詰め、そこからは大きなループ状のコンクリートの道路を三回、高度を下げながらぐるぐると廻り、下り続けて、やっと宮崎県に入る。

父は床に就いていたが話ではできた。私にはあまり時間がなかった。帰る前にどうしても話しておきたいことがあるのだけれど、どう話せばよいのか、いざという時になってなかなか思いつかない、切り出せない。今話しておかないと、次の機会はないかも知れない。開け放した襖の隣の部屋には継母もいる。何か言わねばと焦るほど言葉が出ず、苦悶の末、ついに口から出た言葉は実に乱暴な、かつ、とんでもない言葉が、熊本弁を話すときの荒っぽい口調になって、大きな声で出てしまった。「父さん! 父さんもカトリックにならんか!」。返事はすぐにこれも大きな声で返って来た。「うん、なるよ!」こちらはびっくりして、しばらくしてから喜びが湧いて来た。私はすぐ南宮崎教会に行った。イタリア人の神父様に事情をお話すると、「それは良かったね、でもまだお元気なようだから、もう少し様子をみましょうか。でも何かあればすぐに呼んでください」。私は安心して暗い夜の道を熊本に帰って来た。(今は高速道路がつながってずっと楽になった)

ひと月ほどしてまた連絡があった。病院に入院したとのこと。翌朝、姉と一緒に出掛けた。姉は信者ではないが、家庭を持つ姉には父に会うのはこれが最後になるかも知れない。病室で姉と私が見守る中、神父様から父に洗礼を授けていただいた。二か月余り後、父は亡くなった。葬儀は南宮崎教会で行っていただいた。家に帰って少し落ち着くと継母が言った。「私は仏教ですから、私の時は仏教でお願いしますね」。

それから二、三か月たった頃、その継母から電話があって「私も娘と一緒に二人でカトリックになりたい」ということだった。喜んで神父様に連絡すると、継母は歳だし、車もない、ということで、神父様が車で来て、家で教理を教えてくださいることになった。そして後に同じ南宮崎教会で、継母と娘は洗礼を受けた。継母が亡くなった時は、南宮崎教会での葬儀に私も出席した。教会の庭の一隅にはかねて建築中であった小さな納骨堂ができ上がり、継母もそこに入れていただくことができた。

宮崎と一緒にいった姉は、私より六歳年上の温和な人であった。引き揚げて来て以来、祖母、母、姉と三人で、熊本県の片田舎で馴れない畑仕事で苦勞をして来たが、数年ほどして熊本市に移り住み、姉は後に会社勤めの人と家庭を持った。主人は性格が姉とは反対の話好き、世話好き、活発な人であった。姉は俳句が趣味で、俳句の会に出たり、句集に自分の作った句を載せてもらったりしていた。二人の二階建ての家が、車道を挟んで、小学校の正門の真ん前にあるところから、一階の間を改造して小さな文房具店を開き、姉は小学生相手の文房具店のおばさんになって、程良いくらいの仕事をしていた。私はその後神戸、東京へと移ったが、熊本に立ち寄ったときは、姉の所に立ち寄らせてもらったりした。

その姉も八十代になってからは病みがちになり、入院を繰り返すようになった。三か月ごとに病院を出なければならぬ規則があり、次の病院を探さねばならない。そんなときには義兄が動き回って、よくその世話をしていた。私も一、二度病院を訪問した。最後の訪問では、にこにこしながら私の訪問を喜んでくれた。二人だけになった時、洗礼のことにも少し触れたのだけれど、姉は何か言いたげにしていながら、はっきりとせず、そのまま分かれて来た。

そんな時電話連絡があって、姉がICUに入ったと義兄から連絡があった。私にはもうこれは最後、という予感がして、神戸から急いで熊本に向かった。義兄の家に行き、車で初めての病院に連れていかれた。郊外の真新しい病院だった。ICUに通されて姉を見たとき、もう危ないなと思った。姉は私をみつめるようにして、懸命に私に何か訴えたい様子だが、声が出ない、目も私が見えているのかいないのかははっきりしない。義兄は幸い、離れたところで、こちらに背を向けて医師とナースに何か話しをしている様子。外は薄暗くなりかけていた。教会の神父さんに電話で来てください、とお願いすることも考えたが、すぐその考えはやめた。かりに電話が通じてすぐに車で来ていただいても、三十分はかかるだろう。外はもう暗くなりかけている。新しい病院で、まっすぐ来れるかどうか、またICUでの長い面会は許されないだろう。とっさに私は決心した。姉の枕元には清冽な水の入った小さな水差しがあり、タオルもある。私は水を注ぎながら、姉に洗礼を授けた。幸い義兄はまだ話を続けている。私が洗礼を急いだのにもわけがあった。義兄は熱心な仏教徒であった。前に分骨について訊いたことがあるが、即座に、はっきりと、「それは駄目、私の信じていることに反する」と言われたことがある。分骨のことは、それでよいと諦めていた。

その晩、私は妹の所に泊めてもらった。翌朝、目が覚めると、昨夜、姉が亡くなったことを知らされた。

義兄は姉のために立派な仏式の葬儀を行ってくれた。翌日の朝、神戸に帰る前に、熊本手取教会に立ち寄って、司祭館にも立ち寄ってみると、旧知の神父様がおられ、御挨拶をしたあと姉のことを話していたら、神父様は急にニコニコとされて、お姉さんのお名前を教えてください。祖母さん、お母さんと並べてお姉さんの名も台帳に書き入れましょうと言われた。思いもしなかった嬉しいお言葉で、私は心からお礼を申し上げた。帰りの新幹線の中で、「よかったね」と心の中で姉に言った。

新型コロナウイルス感染症にともなう措置（第13次）

2021年6月18日

教区の皆様

大司教 前田 万葉

+主の平和

教会は、神の国の建設のために司祭・修道者・信徒がともに歩いていく神の民の集まりです。新型コロナウイルス感染症の拡大に一定の歯止めがかかりつつありますが、ワクチンの普及などによる終息までにはまだまだ時間がかかると思われます。したがって、教会に皆が集う信仰生活が通常の形にもどるのもまだ先のことでしょう。それまでの間、段階的に自粛措置が解除されてくる中で、日本社会全体で取り組む新しい生活様式に合わせながら、教会も歩んでまいりましょう。

大阪府、兵庫県に発出されていた緊急事態宣言は6月21日より解除され、引き続いてまん延防止措置が取られます。関係自治体による指針が発表される場合は、基本的にそれに従ってください。

大阪教区といたしましては、公開ミサの中止を解除いたしますが、小教区・修道院・施設によって、地域の事情、集まる人数の規模や構成などが大きく異なりますので、それぞれの責任者が事情に合わせて、公開ミサの形態など最終判断をしてください。詳細については、下記の対応を参考にしてください。

1. 小教区での主日ミサについて

- a. 基本対策（手指消毒、マスク着用、換気、連絡先把握、歌わない、発声をなるべく控える、可能なら2メートル少なくとも1メートルの距離をとって座る、などに加えて入堂時に検温をする）を徹底してください。
- b. ミサの司式者や奉仕者も、ミサ中はマスクを着用します。ただし、聴覚障がい者や高齢者に配慮して、説教台が会衆から2メートル以上離れている場合、説教中はマスクをしなくてもかまいません。
- c. 主日のミサにあずかる義務は、教区内のすべての方を対象に免除しますので、ミサに出席するかどうかは各自でご判断ください。なお、自分の小教区で公開ミサが行われない場合、他の小教区のミサに行くことはしないでください。
- d. 諸事情で対策を徹底できない場合（物理的な面だけでなく、対策をとる上で役員や担当者へ過度な負担がかかる場合なども含む）や、それぞれの場所の事情がある場合は、

公開ミサを中止してください。その場合、司祭は「主日ごとに…自己にゆだねられた民のためにミサを捧げる義務を有する」（教会法 535 条第 1 項）のですから、小教区の信者のために個人的にミサを捧げてください。また、主日の典礼の恵みが何らかの形（オンライン配信や通信文など）で信者に届くように工夫をしてくださるようお願いいたします。

- e. 小教区の主日の公開ミサを中止する場合は、責任者の司祭がブロックのモデラートル、地区長、教区事務局に必ず連絡してください。教区事務局へは、メールで連絡いただくことも可能です。大阪教区司牧者情報【 pastor-info@osaka.catholic.jp 】にお知らせください。

- 小教区以外の修道院や施設でのミサ、また小教区での平日のミサについては、対策が徹底できる範囲内で実施してかまいませんので、それぞれの責任者が判断してください。
- ミサ以外の集まりが必要な場合は、少人数に限ること、飲食をしないことなど感染防止対策を徹底して行ってください。

誰もが感染者となる可能性、あるいはすでに感染者である可能性があることを忘れずに行動しましょう。同時に、どのような状況にあっても信仰と希望を失わず、いっそう配慮を必要としている弱い立場の人々に心を向けて過ごすようにいたしましょう。

祈りのうちに

◇ ミサローテーション ◇

地区月日	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	8/15
1 地区			○			○	
2 地区	○				○		
3 地区				○			○
4 地区		○			○		
5 地区	○			○			
6A 地区			○				○
6B 地区		○				○	
7 地区		○				○	

(○) 印のある日に参加可能です。

- ◇ 大阪教区から新しい通達が来るまで上記の通りお願いします。
- ◇ ミサに与る時は、マスクを着用し、手指の消毒に心がけてください。
- ◇ 『聖書と典礼』はご自分の分を持参してください。

編集後記

コロナ禍の「きたすま」もだ
いぶ号を重ねて参りました。
マンスリースケジュールが
以前のように賑やかになる
のはいつだろう、コロナの経
験で以前と違った形になる
のだろうか、と毎月アフター
コロナに思いを馳せます。
(KYT)



マンスリースケジュール7月

2021



日・曜日			
7/1	木		
2	金		
3	土		
4	日	年間第14主日	ミサ10:00～ 第2・5地区
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日	年間第15主日	ミサ10:00～ 第4・6B・7地区
12	月		
13	火		
14	水		
15	木		
16	金		
17	土		
18	日	年間第16主日	ミサ10:00～ 第1・6A地区 第1回評議会
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		
23	金		
24	土		
25	日	年間第17主日	ミサ10:00～ 第3・5地区
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		
8/1	日	年間第18主日	ミサ10:00～ 第2・4地区
2	月		
3	火		

注) 緊急事態宣言が発令されると、公開ミサはありません。
 その際、再開時については、連絡網にて連絡があります。

カトリック北須磨教会ホームページ <http://cathkitasuma.web.fc2.com>

葬儀用電話の運用は終了しました。緊急時は高橋神父(090-6329-5709)にご連絡ください。

